

# 博士課程教育リーディングプログラム 令和元（2019）年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成25(2013)年度		
機関名	滋賀医科大学	全体責任者（学長）	塩田 浩平
類型	オンリーワン型	プログラム責任者	小笠原 一誠
整理番号	U03	プログラムコーディネーター	三浦 克之
プログラム名称	アジア非感染性疾患(NCD)超克プロジェクト		

## <プログラム進捗状況概要>

### 1. プログラムの目的・大学の改革構想

非感染性疾患（Non-communicable Disease：NCD）は21世紀の健康問題の核心的課題であり、がん、脳心血管疾患、及びその危険因子である糖尿病・高血圧・脂質異常症など生活習慣病の増加という形で顕在化し、アジア新興国において特に深刻な問題となっている。本プログラムの目的は、わが国及びアジア新興国における健康問題の解決と健康寿命の延伸を実現するための産官学におけるグローバルリーダー育成を行うことである。

本学はこれまで我が国の生活習慣病疫学研究において中心的な役割を果たすとともに、国際共同疫学研究においても国内の他の研究機関の追随を許さない実績を持っている。更に、平成25年10月に「アジア疫学研究センター」が新築・設立されたことで、更なる研究・教育活動が開始されている。本プログラムは、これらの実績により長年蓄積された疫学研究フィールド、疫学データベース、疫学・生物統計学・生活習慣病医学分野での学内の人的資源、国内/国際共同研究・アジア提携校の人的ネットワーク、アジア疫学研究センターという研究教育基盤を最大限に活用して、NCD超克を中心課題とした大学院教育システムの再構築を行い、国内外の産学官の広い分野において活躍し国際的センスをもつ「行動するトップリーダー」を養成する。

本学では、本プログラムを契機として大学院教育を以下の点で大胆に改革することとしている。

- ①特任教員等として海外で活躍する外国人教員を積極的に雇用し、英語を中心とする教育により海外からの留学生を含めて国際的に活躍する人材を育てる。
- ②短期/長期研修を充実して、講義から研修への教育手法の転換を図る。アジアの公衆衛生現場でのフィールドワーク、民間企業や保健医療行政機関、国際機関でのインターンシップ、海外大学での研究参加などを必須単位とし、現場で活躍する力を付ける。
- ③短期/長期研修での体験を材料とした報告会、シンポジウム等において英語での討論の場を多数作り、国際的な場で討論する能力の向上を図る。
- ④以上の取り組み、および、関連分野のトップリーダー招聘、学生主体の教育研究プロジェクト実施を通して、産官学におけるNCD対策のグローバルリーダーを育成するプログラムを確立し、さらに大学院全体への横展開を行う。

## 2. プログラムの進捗状況

- ・令和2年3月現在で計26名（日本人8名、留学生18名）のプログラム学生が在籍しており、また、平成28年春から社会人入学を開始し、これまでに6名が入学した。
- ・本プログラムを発展・継続するため、令和2年度から新しく博士課程「NCD疫学リーダーコース」を設置することとし、準備を行った。令和2年春入学生の募集を行い、日本人学生2名が合格した。
- ・海外留学生に対しては、国費留学生特別枠「発展型アジア非感染性疾患（NCD）超克SUMS留学生プログラム」を獲得し、平成30年度秋入学より毎年4名の優先配置を行い、令和元年度は3名の基礎医学系の学生を含めた4名の優秀な留学生が、プログラムを履修した。
- ・全学を対象としたSUMSリーディングプログラムシンポジウムを開催し、認知症の一流研究者とプログラム生が直接議論できるグローバルな舞台を提供することができた。これらにより疫学分野のみならず医学全般にわたってグローバルリーダーを目指す、大学全体で総力をあげての取組みとなっている。
- ・令和元年度には、1か月から2か月の学外研究機関短期研修（インターンシップ）および健康関連産業研修を、平成29年秋・平成30年春入学者を対象に海外研究機関5名（米国・ミシガン大学、ジョンズホプキンス大学、英国・インペリアルカレッジロンドン、オーストラリア・ジョージ国際保健研究所、カナダ・カルガリー大学）、国内研究機関4名（愛知県がんセンター、東京大学、東邦大学）で実施した。これにより、共同研究、ネットワークの獲得などキャリアアップにも繋がっている。
- ・さらにアジア・フィールドワークとして、平成28年度秋・平成29年度春入学者を対象に、アムジェンアステラス、オムロンヘルスケア（株）、バングラデシュ国立心臓財団病院・研究所、国立インドネシア大学に派遣し、公衆衛生や企業の現場でのフィールドワークを実施した。各施設の特徴ある活動やデータ、知見に基づいた実質的なインターンシップを実施し、学生の今後の研究計画に関する有益な討論もなされた。オムロンヘルスケア（株）においては、企業での研究現場を体験することで、産官学におけるグローバルリーダーという将来にむけた知見を深めることができた。これらの研究施設での研修を今後も継続し、共同教育していく体制を確立しており、キャリアパスでも有益な結果がでている。またバングラデシュ国立心臓財団病院・研究所とは、平成30年度に実施したアジア・フィールドワークの共同研究の成果をまとめ、学内発表会で発表し講評をうけるなど、現在共同教育の体制を構築している。
- ・修了後に産業界や行政でも活躍する人材を養成するためのカリキュラムとして、上記の公衆衛生現場や企業での研修の他に、実際に行政や産業界の第一線で活躍されている外部講師陣も迎え、講義だけでなく、意見交換や議論を行うなど、学生ひとりひとりがグローバルリーダーと直接交流を深める機会を設けている。令和2年1月には厚生労働省大臣官房審議官佐原康之氏の招聘特別講義が予定されていたが、残念ながらCOVID-19のため中止を余儀なくされた。
- ・新しい試みとして令和元年度より本プログラムのフェイスブックを立ち上げ、在校生、修了生、ファカルティが参加、情報公開することにより、情報交換、交流とその発展の機会を設けている。
- ・以上のように、本プログラムは当初の計画を達成するための運営体制整備、教育実践、大学院改革を力強く進めている。